

経営比較分析表（平成29年度決算）

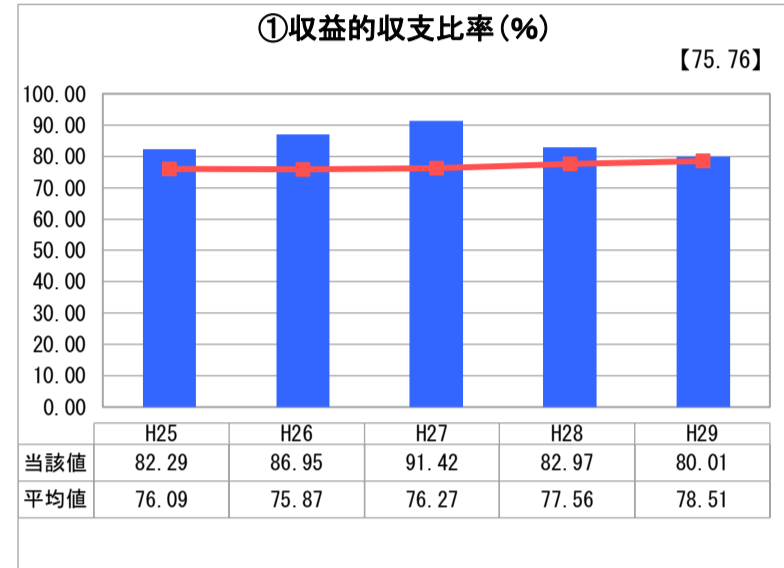
福井県 小浜市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	15.12	1,296	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,743	233.11	127.59
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,466	24.60	181.54

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



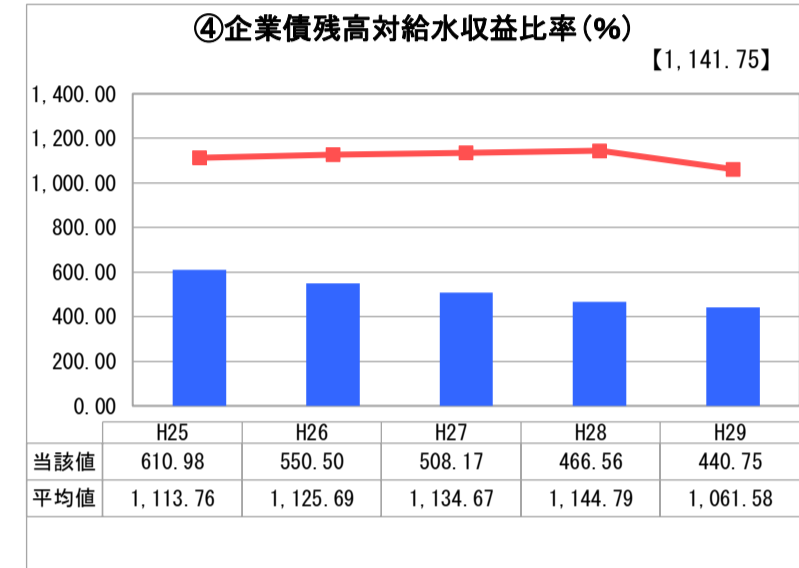
「単年度の収支」



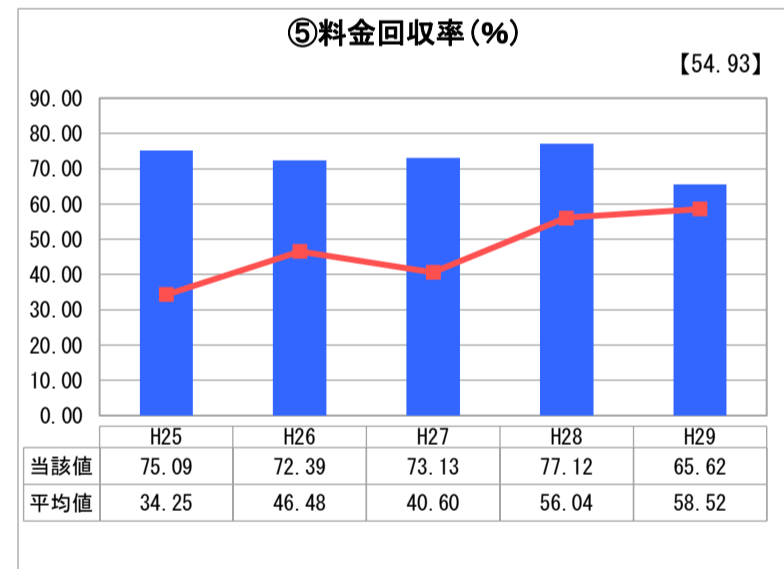
「累積欠損」



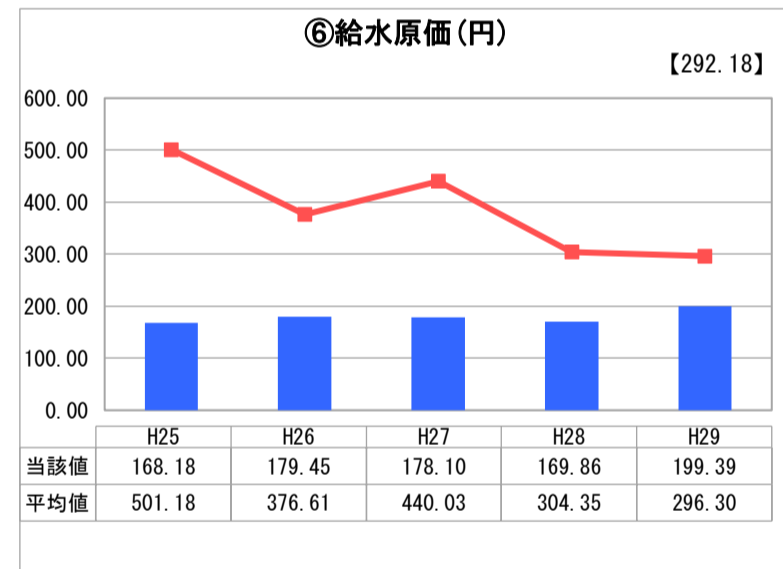
「支払能力」



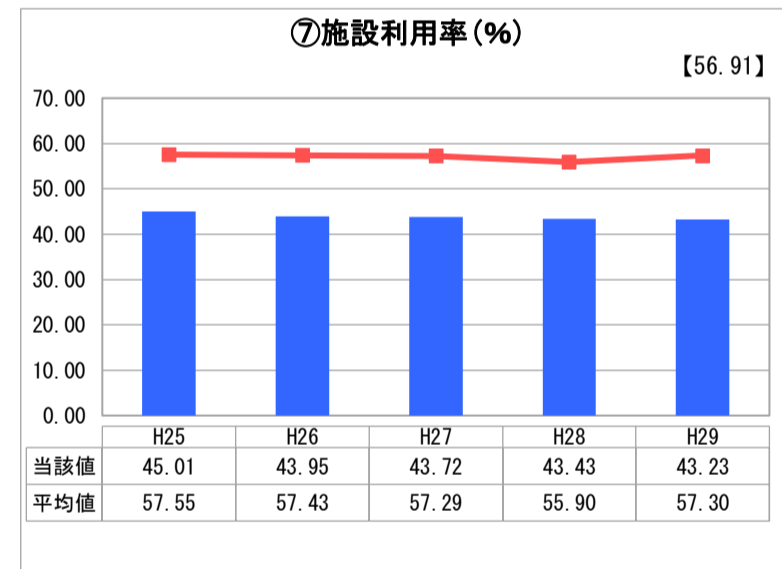
「債務残高」



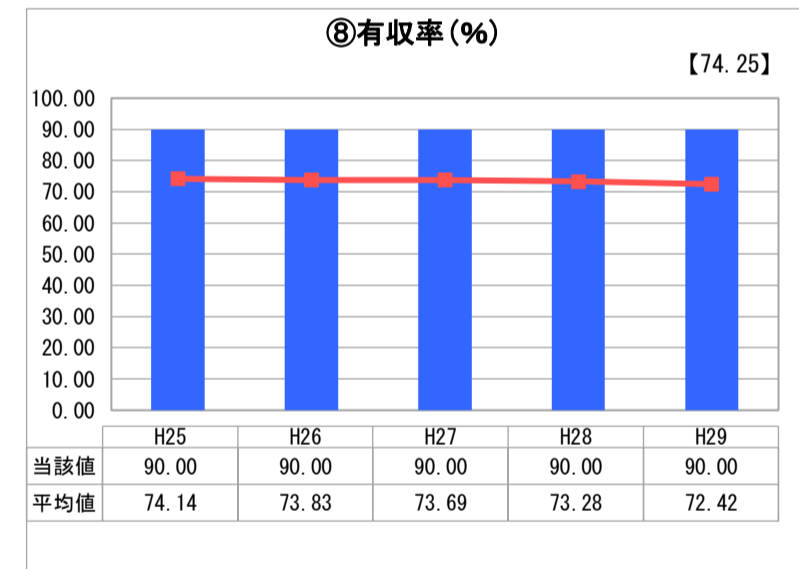
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

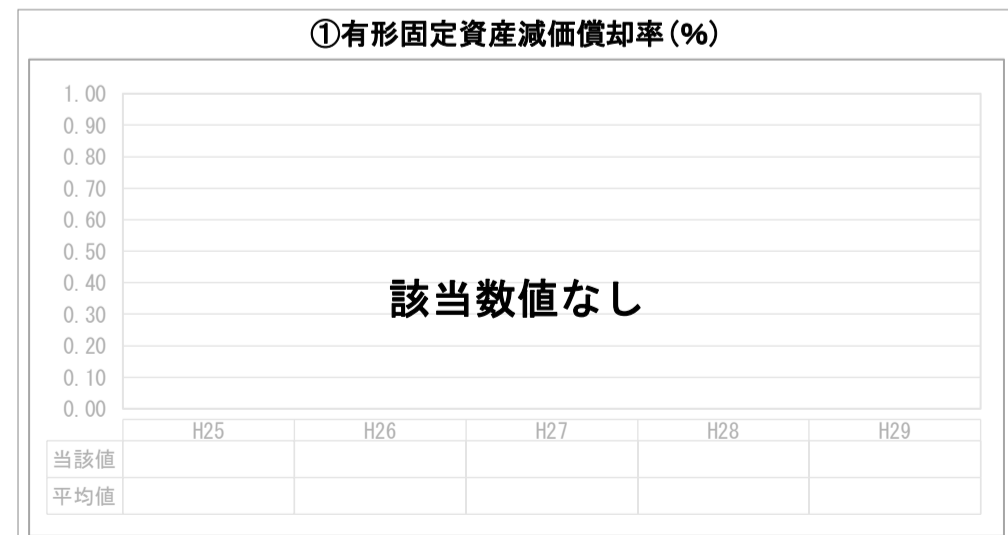


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

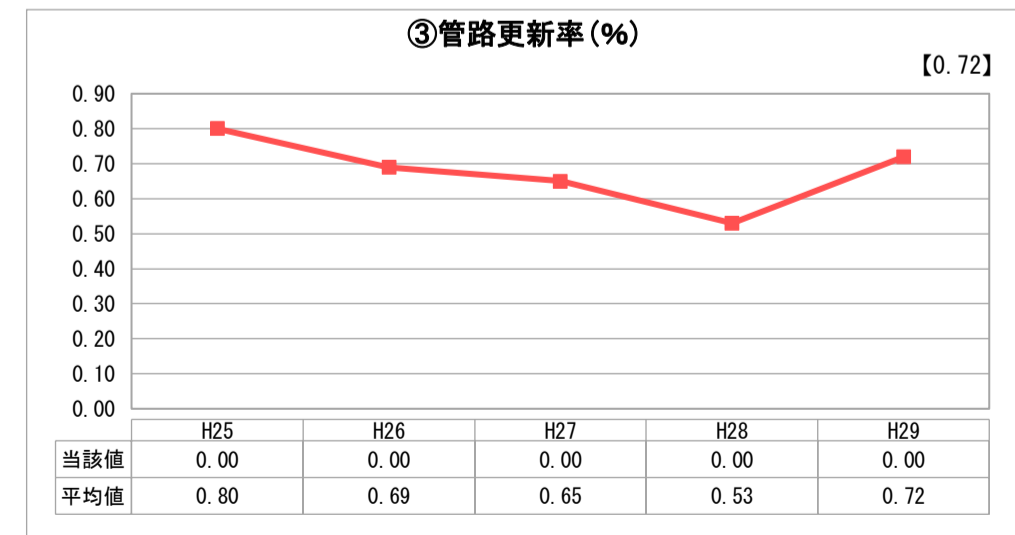
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、類似団体を上回っているが、人口減少や節水機器等の普及、市民の節水意識の高まりにより給水収益が年々減少し、基金の取崩しにより運営を行っている。

④企業債残高対給水収益比率については、企業債を発行していなかった期間により、企業債残高が年々減少しているが、公営企業会計適用債を今年度から3年間発行することとなり、今後、増加が見込まれる。

⑤料金回収率については、類似団体平均値を上回っているが、100%を下回っていることから、未収金の解消および適切な使用料設定が必要と考える。

⑥給水原価については、類似団体と比較すると低い傾向にあるが、今後、施設等の老朽化が進むと、修繕費や工事請負費の増加が見込まれ、給水原価も高くなる。

⑦施設利用率については、施設建設当時と比べ人口減少、節水機器の普及、市民の節水意識の高まりにより、当該地が50%未満の要因と考える。

2. 老朽化の状況について

管路更新率については、現状、破損した箇所から修繕しているが、現在策定中の「水道ビジョン」において更新等に向けた方向性を定め、効率的な管の更新を行っていききたい。

全体総括

当簡易水道事業は、17施設から構成されている。事業経営については、費用を抑制しているものの、給水収益が、給水人口の減少や節水機器の普及・市民の節水意識の高まりにより、年々減少しており、基金の取崩しおよび一般会計からの基準内繰入により成り立っている。

今後は、経営面においては、「地方公営企業法」への適用を行い、適正な料金設定に繋げ、施設面においては、施設や管路の中長期的な指針を、現在策定中の「水道ビジョン」により示すこととなっている。

また、併せて、段階的に上水道への施設統合も推進する。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。